

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合いましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2023.2.27-3.5

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合いましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

➤ 27日 月曜

I サムエル

17:41 そのペリシテ人は盾持ちを前に立て、ダビデの方にじりじりと進んで来た。
17:42 ペリシテ人は、ダビデに目を留めて彼を見つめ、彼を蔑んだ。ダビデが血色の良い、姿の美しい少年だったからである。
17:43 ペリシテ人はダビデに言った。「おれは犬か。杖を持って向かって来るとは。」ペリシテ人は自分の神々によってダビデを呪った。
17:44 ペリシテ人はダビデに言った。「さあ、来い。おまえの肉を空の鳥や野の獣にくれてやろう。」
17:45 ダビデはペリシテ人に言った。「おまえは、剣と槍と投げ槍を持って私に向かって来るが、私は、おまえがそしたイスラエルの戦陣の神、万軍の【主】の御名によって、おまえに立ち向かう。
17:46 今日、【主】はおまえを私の手に渡される。私はおまえを殺しておまえの頭を胴体から離し、今日、ペリシテ人の軍勢の屍を、空の鳥、地の獣に与えてやる。すべての国は、イスラエルに神がおられることを知るだろう。
17:47 ここに集まっているすべての者も、剣や槍がなくても、【主】が救いをもたらすことを知るだろう。この戦いは【主】の戦いだ。主は、おまえたちをわれわれの手に渡される。」
17:48 そのとき、そのペリシテ人はダビデの方に近づき始めた。ダビデは、すばやく戦場を走って行き、ペリシテ人に立ち向かった。
17:49 ダビデは手を袋の中に入れて、石を一つ取り、石投げでそれを放って、ペリシテ人の額を撃った。石は額に食い込み、彼はうつ



ぶせに地面に倒れた。

ダビデは死の危険を冒してペリシテ人ゴリアテに立ち向かいました。誰の目にもダビデが簡単に殺されると見えたでしょう。しかしダビデには勝算がありました。それは彼が「イスラエルの戦陣の神、万軍の主の御名によって」戦うからです。彼の確信がどこから来るのかというと、それは自分自身の動機にありました。

どんなことでも主のためにという動機で戦うなら、そこに勝算があるのです。当然チャレンジすることも同じでしょう。逆に自分の欲や名声や満足ののためにするなら、どんなにゴリアテのように強い者でも敗北が待っているのです。

またダビデは敵の前に立つという危険に自分をさらしました。「走って行き」とありますから、そこには恐れや迷いはなかったでしょう。だからこそ勝機を逃がさなかったのです。

主のための戦い・チャレンジと信じるなら、恐れていないで、勇気を持って立ち向かいましょう。本当の勇気とは主の勝利を信じることから生じます。そして主の勝利を信じることは、主のための戦いという自分の純粋な動機から生まれるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



28日 火曜

I サムエル

17:50 ダビデは、石投げと石一つでこのペリシテ人に勝ち、このペリシテ人を撃って、彼を殺した。ダビデの手に剣はなかったが。
17:51 ダビデは走って行ってペリシテ人の上に立ち、彼の剣を奪ってさやから抜き、とどめを刺して首をはねた。ペリシテ人たちは、自分たちの勇士が死んだのを見て逃げた。
17:52 イスラエルとユダの人々は立ち上がり、ときの声をあげて、ペリシテ人をガイの谷間に至るまで、そしてエクロンの門まで追った。それでペリシテ人は、シャアライムの道に、ガテとエクロンに至るまで、刺し殺されて倒れていた。
17:53 イスラエル人はペリシテ人追撃から引き返して、ペリシテ人の陣営を略奪した。
17:54 ダビデは、あのペリシテ人の首を取ってエルサレムに持ち帰った。しかし、武具は自分の天幕に置いた。
17:55 サウルは、ダビデがあつたペリシテ人に向かって出て行くのを見たとき、軍の長アブネルに言った。「アブネル、あの若者はだれの息子か。」アブネルは言った。「王様、お誓いしますが、私は存じません。」
17:56 そこで、王は命じた。「あなたは、あの少年がだれの息子かを調べなさい。」
17:57 ダビデがペリシテ人を討ち取って帰って来たとき、アブネルは彼をサウルの前に連れて来た。ダビデはペリシテ人の首を手にしていた。
17:58 サウルは彼に言った。「若者よ、おまえはだれの息子か。」ダビデは言った。「あなたのしもべ、ベツレヘム人エッサイの息子です。」



少年ダビデはペリシテ人ゴリアテを打ち倒し、それによりイスラエルは勝利を得ました。サウル王は勇士であるダビデを呼び寄せました。

ダビデの手に「剣はなかった」のですが、彼の信仰と主のためという純粋な動機、そして自分に与えられた生き方（羊飼いとて猛獣から羊を守る）に最善をつくしていたことによって、この奇跡的な勝利を得ることができたのです。

私たちは、主のみわざなど起きるのだろうかとか疑念を抱く前に、ダビデのような信仰と取り組みがあつただろうかと、考えてみる必要があります。

ダビデー人の勇氣ある信仰、また自分を危険にさらす献身的な信仰によって、イスラエルの群れ全体が「立ち上がり」、ペリシテ人を「追っ」て戦いました。自分一人では何もできないからと、あきらめてしまわないで、まず信仰によって立ち上がってみましょう。それによって大きな可能性を生むのです。

ダビデはサウルのために堅琴を弾いていたのですが、まだこの時点では彼によく知られてはいませんでした。預言者サムエルから王となるべく油を注がれたのですが、その実現のためにはまだプロセスや訓練が必要であつたということです。

主によって勝利と祝福が約束されている私たちですが、性急に結果だけを求めないで、主からの導き・訓練をいただいて時を待つ忍耐も持ちましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



1日 水曜

I サムエル



18:1 ダビデがサウルと語り終えたとき、ヨナタンの心はダビデの心に結びついた。ヨナタンは、自分自身のようにダビデを愛した。

18:2 サウルはその日、ダビデを召しかかえ、父の家に帰らせなかった。

18:3 ヨナタンは、自分自身のようにダビデを愛したので、ダビデと契約を結んだ。

18:4 ヨナタンは着ていた上着を脱いで、それをダビデに与え、自分のよろいかぶと、さらに剣、弓、帯までも彼に与えた。

18:5 ダビデは、サウルが遣わすところどこへでも出て行き、勝利を収めた。サウルは彼を戦士たちの長とした。このことは、すべての兵たちにも、サウルの家来たちにも喜ばれた。

18:6 皆が戻り、ダビデがああペリシテ人を討ち取って帰って来たとき、女たちは、イスラエルのすべての町から、タンバリンや三弦の琴をもって、喜びつつ、歌い踊りながら出て来て、サウル王を迎えた。

18:7 女たちは、笑いながら歌い交わした。「サウルは千を討ち、ダビデは万を討ちた。」

18:8 サウルは、このことばを聞いて激しく怒り、不機嫌になって言った。「ダビデには万と言い、私には千と言う。あれにないのは王位だけだ。」

18:9 その日以来、サウルはダビデに目をつけるようになった。

王子ヨナタンはダビデの人柄を愛し、尊敬によって友情を結びました。彼には王位や上下関係よりも、人の純粋なたましいを大切にす、神の価値観があったのです。彼はまた父の次に権威ある者として民を指導してゆくべき地位にありましたから、理解

者や助言者や同労者を必要としていたのでしょう。ヨナタンの真摯な思いがわかります。

一方民は（女性たちの盛り上がりでわかるのですが）、ダビデの目に見える結果を単純に讃えました。それ自体は良くも悪くもないのですが、主にもサタンにも用いられる可能性があります。ここではサウルを不安にするための要因にもなりました。そのような人々もいるということは考えておくこともよいでしょう。

サウルはダビデを「疑いの目で見えるようになった」のですが、それは全く自分本位な思いです。なぜなら主の御心から離れたからです。人間的に見れば、祭司以外の者がいけにえをささげても、また戦利品をてに入れても問題ないように感じますが、神の命令から離れてしまうなら、自分の思いのままに生きてしまうのが人間なのです。

神の御心にこそ永遠の価値観があるということをお忘れないようにし、御心からそれではないかどうかを、よく吟味しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



2日 木曜

I サムエル



18:10 その翌日、わざわざをもたらす、神の霊がサウルに激しく下り、彼は家の中で狂いわめいた。ダビデはいつものように竖琴を手にして弾いたが、サウルの手には槍があった。

18:11 サウルは槍を投げつけた。ダビデを壁に突き刺してやろうと思ったのである。ダビデはサウルの攻撃から二度も身をかわした。

18:12 サウルはダビデを恐れた。それは、【主】がダビデとともにおられ、サウルを離れ去られたからである。

18:13 サウルはダビデを自分のもとから離し、彼を千人隊の長にした。ダビデは兵の先に立って行動した。

18:14 【主】が彼とともにおられたので、ダビデは、行くところどこでも勝利を収めた。

18:15 彼が大勝利を収めるのを見て、サウルは彼を恐れた。

18:16 イスラエルもユダも、皆がダビデを愛した。彼が彼らの先に立って行動したからである。

サウルは自分のためだけに生きることが、すでにその目的になってしまいました。そうなると自分の安心が第一となり、ダビデがいかに主のご計画を進める人物であっても、心配の種になってしまいました。そして自分がまるで被害者のように思い込んで、自分を守るために他人に攻撃的になるのです。それで、なおさら主と民の前に、自分の価値をおとしめることになってしまいました。

それは現代でも、またクリスチャンでもありうることなので、よく気をつけなければなりません。またそのような人には、主の愛による安心が必要です。ダビデは、そのような自己中心な王であっても、主が立てられた権威に、またはまだ残しておられる

権威に対して、主のゆえに忠実・従順でした。それは自分を神と民の前に自分を高めることとなりました。さらにはそれが主のご計画を進めることになったのです。

私たちがダビデを模範として、理不尽に感じることも主の時を信じつつ、主の権威と計画に従っていきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



3日 金曜

I サムエル

18:17 サウルはダビデに言った。「これは、私の上の娘メラブだ。これをおまえの妻として与えよう。ただ、私のために勇敢にふるまい、【主】の戦いを戦ってくれ。」サウルは、自分の手を下さないで、ペリシテ人に手を下させよう、と思ったのである。

18:18 ダビデはサウルに言った。「私は何者なのでしょう。私の家族、私の父の氏族もイスラエルでは何者なのでしょう。私が王の婿になるとは。」

18:19 ところが、サウルの娘メラブをダビデに与えるというときになって、彼女はメホラ人のアデリエルに妻として与えられた。

18:20 サウルの娘ミカルはダビデを愛していた。そのことがサウルに告げられた。そのことは、サウルの目には良いことに思えた。

18:21 サウルは、「ミカルを彼にやろう。ミカルは彼にとって異となり、ペリシテ人の手が彼に下るだろう」と思った。そして、サウルはもう一度ダビデに言った。「今日こそ、おまえは婿になるのだ。」

18:22 サウルは家来たちに命じた。「ダビデにひそかにこう告げなさい。『ご覧ください。王はあなたが気に入り、家来たちもみな、あなたを愛しています。今、王の婿になってください。』」

18:23 サウルの家来たちは、このことばをダビデの耳に入れた。ダビデは言った。「王の婿になるのがたやすいことに見えるのか。私は貧しく、身分の低い者だ。」

18:24 サウルの家来たちは、ダビデがこのように言っています、と言ってサウルに報告した。



18:25 サウルは言った。「ダビデにこう言うがよい。王は花嫁料を望んではない。ただ王の敵に復讐するため、ペリシテ人の陽の皮百だけを望んでいると。」サウルは、ダビデをペリシテ人の手で倒そうと考えていた。

18:26 サウルの家来たちはこのことばをダビデに告げた。王の婿になることは、ダビデの目には良いことに思えた。そこで、期限が過ぎる前に、

18:27 ダビデは立って、部下と出て行き、ペリシテ人二百人を討って、その陽の皮を持ち帰った。こうしてダビデは、王の婿になるために、王に対して約束を果たした。サウルは娘ミカルを妻としてダビデに与えた。

18:28 サウルは、【主】がダビデとともにおられ、サウルの娘ミカルがダビデを愛していることを見、また知った。

18:29 サウルは、ますますダビデを恐れた。サウルはずっと、ダビデの敵となった。

18:30 ペリシテ人の首長たちが出陣して来たが、彼らが出て来るたびに、ダビデはサウルの家来たちのすべてにまさる戦果をあげ、彼の名は大いに尊ばれた。

サウルはダビデを戦死させるために、戦いに向かわせ、その報いとして娘をあたえると約束します。しかしダビデは無事に勝利して帰ります。主のために謙遜に生きる者には、主の守りがあるものです。サウルと対照的です。

サウルは「主がダビデとともにおられる」と見て知ったにもかかわらず、心が改まりません。主に敵対しており、主への恐れがなくなっていることがわかります。これは不信仰の末期的な状態です。罪を認めたなら、自分を変えて改めることに真実でありましょう。

ダビデの謙遜と従順は変わりません。それで「彼の名は非常に尊ばれた」のです。後に王となるための基盤が、王位を求めない謙遜から生まれたのです。私たちも謙遜と従順が、将来を形作ることを知りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 4日 土曜

I サムエル



19:1 サウルは、ダビデを殺すと、息子ヨナタンやすべての家来に告げた。しかし、サウルの息子ヨナタンはダビデを非常に愛していた。

19:2 ヨナタンはダビデに告げた。「父サウルは、あなたを殺そうとしています。明日の朝は注意してください。隠れ場にとどまり、身を隠してください。

19:3 私はあなたのいる野に出て行って、父のそばに立ち、あなたのことを父に話します。何か分かったら、あなたに知らせます。」

19:4 ヨナタンはダビデを弁護し、父サウルに言った。「王よ、しもべダビデのことで罪を犯さないでください。彼はあなたに対して罪を犯してはいません。むしろ、彼のしたことは、あなたにとって大きな益となっています。

19:5 彼が自分のいのちをかけてペリシテ人を討ったので、【主】は大きな勝利をイスラエル全体にもたらしてくださったのです。あなたはそれを見て喜ばれました。なぜ、何の理由もなくダビデを殺し、咎のない者の血を流して、罪ある者となられるのですか。」

19:6 サウルはヨナタンの言うことを聞き入れた。サウルは誓った。「【主】は生きておられる。あれは殺されることはない。」

19:7 ヨナタンはダビデを呼んで、このことすべてを告げた。ヨナタンがダビデをサウルのところに連れて来たので、ダビデは以前のようにサウルに仕えることになった。

ダビデは主とその立てた王に従順であったことにより、地上ですばらしい人間関係すなわち友情を得ました。気が合う、楽しい、自分のためになる…というだけの友だちは状況が変わればやがて離れてし

まいます。下手をすると、自分のためにならなくなったという理由で、サウルのように敵になってしまうことすらあります。

ダビデとヨナタンのように、主のために生きることによって与えられた友情こそ、強く不変で、また美しいものです。主が結びつけられたからであり、また互いにアガペーの愛の実践者であるからです。

主の栄光を共に喜び合えるような友情を求めましょう。そして成長しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



5日 日曜

I サムエル

19:8 再び戦いが起こった。ダビデは出て行って、ペリシテ人と戦い、彼らを討って大損害を与えた。彼らはダビデの前から逃げた。

19:9 わざわいをもたらす、【主】の霊がサウルに臨んだ。サウルは自分の家で座っていて、手には槍を持っていた。ダビデは豎琴を手にして弾いていた。

19:10 サウルは槍でダビデを壁に突き刺そうとした。ダビデがサウルから身を避けたので、サウルは槍を壁に打ちつけた。ダビデは逃げ、その夜は難を逃れた。

19:11 サウルはダビデの家に使者たちを遣わし、彼を見張らせ、朝に彼を殺そうとした。ダビデの妻ミカルはダビデに告げた。「今夜、自分のいのちを救わなければ、明日、あなたは殺されてしまいます。」

19:12 そして、ミカルはダビデを窓から降ろし、彼は逃げて難を逃れた。

19:13 ミカルはテラフィムを取って、寝床の上に置き、やぎの毛で編んだものを頭のところに置き、それを衣服でおおった。

19:14 サウルはダビデを捕らえようと、使者たちを遣わした。ミカルは「あの人は病気でず」と言った。

19:15 サウルはダビデを見定めるために、同じ使者たちを遣わして言った。「あれを寝床のまま、私のところに連れて来い。あれを殺すのだ。」

19:16 使者たちが入って見ると、なんと、テラフィムが寝床にあり、やぎの毛で編んだものが頭のところにあった。

19:17 サウルはミカルに言った。「なぜ、このようにして私をだまし、私の敵を逃がして、

逃れさせたのか。」ミカルはサウルに言った。「あの人が、『逃がしてくれ。私がどうしておまえを殺せるだろうか』と私に言ったのです。」

サウルは自分のために生き、不安からダビデを敵とみなしました。ダビデは主のために生き、それゆえ王を敵とせずに従順でした。ダビデは王位を求めていなかったのです。しかしそれゆえに彼は王となる備えをすることができたのです。

そしてサウルの娘までもが彼を助けました。周囲はダビデの人柄を認めたのです。このように主に従順で私心のない人は、主によって守られるゆえに、その味方を増やすことができます。人を味方につけようというのではなく、ただ主のために生きましょう。

またサウルが預言するのは不思議でもあります。すべては神の主権であることがわかります。超自然的なわざが、必ずしも御心になう人によってなされるとは限りません。人は主の前にいつても謙遜であるべきです。



①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

